



愛川ふれあいの村8月の風景

平成25年 8月 自然のたより

晴れの日が続いた8月。暑さに負けず、セミやトンボなどの昆虫が多く飛び交っていました。鳥の姿を隠すほど木々は繁茂していますが、水不足で、一部黄葉・紅葉しています。雨が降らない今夏は植物にとっては深刻な夏になりました。下旬には夜に秋の風を感じられ、少し早い秋が訪れそうです。



エゴヒゲナガゾウムシの産卵



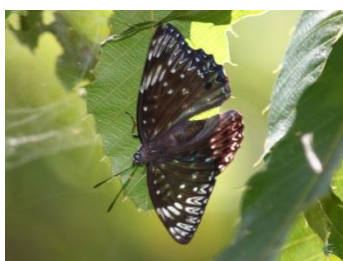
ハクセキレイのヒナ



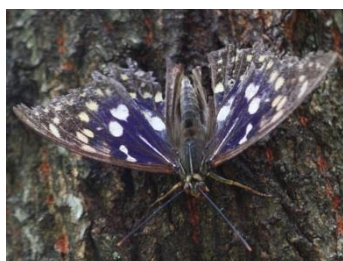
タカサゴユリ



ハグロトンボ



休憩中のスミナガシ



オオムラサキのメス



花粉まみれのミツバチ



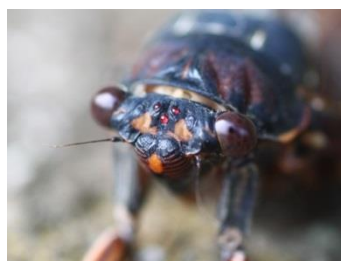
輝いているタマムシ



小さなアオバハゴロモ



大きなヤママユガ



赤い3つの点もセミの目



青いドングリ



色付いてきたミズキ



一輪のスイレン



サルスベリと青空

★エゴヒゲナガゾウムシの産卵★

ドングリや、エゴの実に空いている穴の正体は…

村のドングリやエゴの実に時々小さな穴が空いています。誰かが、かじったようなこの穴はゾウムシが産卵した痕です。ゾウムシはゾウの鼻のように長い口を使って実に穴をあけます。ドングリの帽子に穴をあけられるぐらい頑丈な口をしています。写真のように産卵した後、再び長い口で卵をさらに中に押しこみます。外敵から卵を守るため、工夫をしています。

▶ 堅いドングリの帽子の直径2mmぐらいの小さな穴。産んだ実を切り落とす仲間もいる。



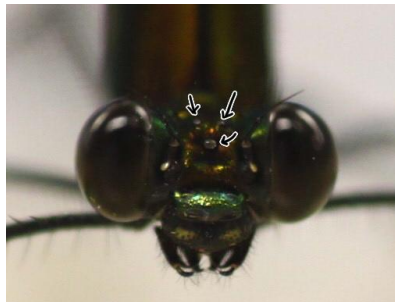
★トンボの目★

トンボには大きな目があります。これは約2万個もの「個眼」と呼ばれる小さな目の集まりで、その集まりを「複眼」と言います。個眼は対象の一部を見る機能があり、その情報を集め、視野を広げています。少しの動きでも、たくさんの個眼で見ているため大きな動きのようにトンボには見えています。しかし、光を感じ取る機能は低く、その部分を補うため、複眼の間に「単眼」と呼ばれる目が3つあります。

複眼は主に「モノ」を、単眼は「明るさ」を感じています。単眼はわずかな光でも感じ取れ、感じ取った明るさの変化を素早く脳に伝えます。それらの目があるおかげで、動く獲物や天敵の存在を察知することが出来ます。トンボも生きるために色々な機能を持っています。

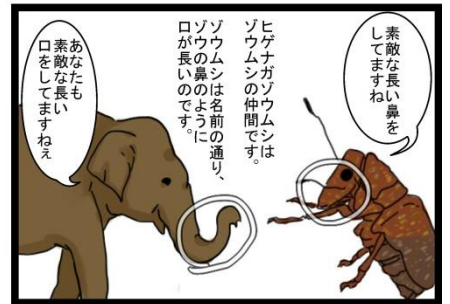
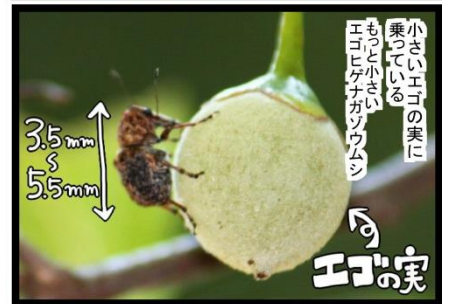


▲村で飛んでいるハグロトンボ



▲矢印の部分が「単眼」

子どもの安全



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611

HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・葉青芳

文章：葉青芳・大瀧裕基子

漫画・イラスト：葉青芳

編集：葉青芳・加藤文昭

愛川ふれあいの村
で、検索★

